

トリたちに 《害鳥》は いるのか



愛鳥の心が育てるよい環境 14
(日本鳥類保護連盟編集部 原入選鳥標誌)

ムクドリ

△害鳥と呼ばれるトリたちの迷惑

むかし、プロシアのフリードリヒ王は、スマがサクランボを食べて困るとう農民の訴えをきいて、さっそくズメ退治をさせましたが、こんどは害虫が大発生してサクランボも全滅してしまいました。

ある夏、害虫の大発生で困っていた農家のイネの田に、ネバカリエが食べるためにいた△害鳥のほどのスマがたくさんの集まつてきて害虫を片っぽから食べているのを見た農家の人はいたへん驚いてしまいました。

むかし、関東地方にあるナン(梨)の産地でオナガがナシの実を食ひ荒らすという報告があり、専門家がナシ畑に来るオナガの約四百羽の胃を調べたところ、ナシの実をたべていたのはわずか四八・七%、残りは昆虫と野生物などの上で、害をする虫とあります。

トリの場合は、有些の部分は見のがされがちで、いまお話ししたスマの△害鳥としての活躍ぶりでもおわかりのように、ほつきりと△害鳥△ときめつけられた種類は、昆虫の中の半数ほどの害鳥手との詳書には「農林・水産業などの上で、害をする虫」とあります。

アトリやカシラカモも、最近の調査で益鳥であることがわかりました。

△害鳥。手との詳書には「農林・水産業などの上で、害をする虫」とあります。トリの場合は、有些の部分は見のがされがちで、いまお話ししたスマの△害鳥としての活躍ぶりでもおわかりのように、ほつきりと△害鳥△ときめつけられた種類は、昆虫の中の半数ほどの害鳥手との詳書には「農林・水産業などの上で、害をする虫」とあります。

自然のバランスを保つ天敵としてのトリ

農林業での害虫をおさえる有効な方法は、天敵を利用することです。そして、害虫にとつていばんこい天敵は、トリです。

たとえば、シニユカラが一年間に食べる昆蟲の数は、成鳥で約十三万五千匹になります。ヒナが親鳥からもらう昆蟲は、一羽あたり一日平均五〇匹です。したがって、一つがいのシニユカラが年に二回繁殖で十一羽ヒナを育てたとすると、このシニユカラ一家が年間に食べる昆蟲の数は、なんと二一百九十五匹になる計算です。

天敵の存在は、それ自体、「植物」それを食べ害虫を食う個体……この自然のバランスを保つ重要な役割りを果たしているます。つまり、害虫がはるか離の天敵がいるからで、この大自然の人猿△とヒトが勝手に破壊することは、バランスをくずす、やがて自然から大きくなじみへ返を受けることがあります。

まだ農業などが使わなかった江戸時代の初期、土佐藩の家老だった野中兼山は、天敵としてのトリの存在の大切さを人間に教えました。なかでも「ムクドリは千羽に一羽の割合で毒鳥がいる」という教えが、あるムクドリの保護に果たした役割は大きかつたにちがいありません。



法人
サントリー株式会社
日本鳥類保護連盟
●この企画は、財団法人日本鳥類保護連盟がシナリオとして制作したものであります。